

看護いばらき

No.116

2017年3月31日

+

公益社団法人
茨城県看護協会
Ibaraki Nursing Association



CONTENTS

- 2 平成 28 年度茨城県看護研究学会 -看護力を育み 活かそう-
- 3 看護実践研修 糖尿病看護-基礎知識とフットケア-
- 4 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修
- 4 第 48 回日本看護学会-在宅看護-学術集会
- 5 そよかぜ 私の専門 ~がん看護専門看護師~
- 6 保健師職能委員会ニュースレター
- 8 准看護師学生のキャリア支援に関する実態調査報告
- 9 研修のお知らせ
- 10 訪問看護入門プログラムを開催しました
- 10 訪問看護ステーション出向研修交流会を開催しました
- 11 地域包括ケア推進に関する研修会の案内
- 12 第 53 回いばらき看護の祭典 ~看護の心をみんなの心に~
- 12 平成 28 年度理事会報告

会員数(平成29年3月14日現在)

合計 **14,239**人

保健師 402人

助産師 498人

看護師 12,213人

准看護師 1,126人

平成28年度茨城県看護研究学会

—看護力を育み 活かそう—

と き：平成 29 年 2 月 23 日（木）

ところ：茨城県立県民文化センター

参加者：385 名

看護職が多職種との連携により、多くの局面での看護力が問われ役割期待も多くなっています。日頃の実践活動を中心に参加者とともに看護の専門性について考える機会にしたいとの思いを込めて「看護力を育み 活かそう」というテーマで開催されました。



特別講演 「自分と未来は変えられる『やる気』の高め方」

講師 宮本 秀明 有限会社ヒューマン・ギルド 法人事業部長
座長 渋谷 えみ 茨城キリスト教大学 准教授

講演では、「勇気づけの心理学」といわれるアドラー心理学をベースに、前向きな気持ちで主体的・積極的に仕事に向き合っていくための考え方や手法を学び、そのメカニズムを知り、自分自身への理解を深めることで、自分でうまくコントロールできる、アドラー流「やる気の高め方」を知っていただく内容でした。

講演の中で参加者が「やる気の高め方」について実践するところもあり、一体感のある講演でした。



口演発表 25 題



示説発表 20 題



☆発表者の声（発表直後の演者へのインタビュー）

- ・とても緊張しました。
- ・自分の病院のこと、病棟ことを知ってもらえる機会になりました。
- ・家族看護はどこも一緒であることをわかってもらえればと思いました。
- ・学会は研究をまとめる機会になります。
- ・普段病棟で問題になっていることをまとめるきっかけになりました。
- ・(示説) 他の学会では興味がある数人しか集まらないが、今回は沢山聞きにきていたので驚きました。
- ・やってきたことを評価してもらえて良かった。

☆参加者の声

- ・単科の病院に勤務しており、他施設（他科）の発表を聞いて勉強になった。
- ・同じ科でもやり方が違うことがわかった。
- ・自分が今後やりたい研究があり、参考になった。

取材者：黒澤・渡邊

看護実践研修 糖尿病看護ー基礎知識とフットケアー

開催日:平成28年12月21日 場所:茨城県立サッカースタジアム大会議室 参加者:56名

本研修は、糖尿病患者のアセスメントができ、必要な援助技術を学び活用できることを目的として、診断と治療、そして薬剤の副作用や合併症予防、糖尿病患者の足を守るための支援の方法とフットケアのチェックポイント、実践方法まで具体的な内容を交えながらの講義となりました。



講師 (左) 東京医大茨城医療センター 平岡 美紀 先生
(右) 総合病院土浦協同病院 内田みさ子 先生

愛情こそが
最高の技術



受講風景

〈受講の動機〉

- ・糖尿病の患者が多く、フットケアに興味があり、受講を希望した。
- ・フットケアの方法を詳しく学びたいと思います。
- ・糖尿病の基礎知識を改めて学びたいと考えた。
- ・更にフットケアの知識・技術を学びたいと思ったため

〈学べたこと〉

- ・対象となる患者のライフスタイルを理解し、指導していくことが重要であることを学べた。
- ・患者を生活者として捉え、豊かな生活を送れるように支援することが大切であることを学べた。
- ・正常の足と危険な足の見極めが重要であると感じた。
- ・患者とともに「今、何が起きているのか」を考えていくことが大切である。目にみえない病気だからこそ、その方が受け入れられるように生活者としての支援が大切である。



講義内容スライド

〈今後、どう役立てるか〉

- ・患者指導に役立てていきたい。
- ・その人に合った指導を行っていく。
- ・糖尿病足病変を起こす前の予防的な介入を行っていく。
- ・患者指導を支援していく中で、その方を行動変容させるのではなく、一緒に何が起きているのかを考え、その方が導いた選択を支えていけるように少しずつ実践していき、今後も学びを深めていく。

取材者：濱野 鳥畑

看護補助者の活用推進のための看護管理者研修

開催日:平成29年1月13日 場所:水戸プラザホテル 参加者:123名

本研修では効率的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務拡大や教育および就労環境について理解し、自施設における看護補助者体制整備の一助を目的としており、60施設から123名の参加がありました。

研修は、看護補助者の活用推進の為に内容で講義と演習の2部構成で行われました。講義では、日本看護協会の川本利恵子常任理事、福井トシ子常任理事のDVDを使用した説明があり、演習では15グループに分かれ、テーマについて話し合いました。その後、各グループの発表が行われ、研修終了後に修了証が交付されました。



演習風景

参加者の声

- ・グループ内の他施設の方との話し合いを通して、自施設との違いがわかり、自施設の取り組みにないことは、今後に取り入れていきたい。
- ・本研修を通して、看護補助者の活用がより理解できた。本研修の内容を活かしていきたい。
- ・マニュアルをうまく活用していきたい。
- ・職場の人間関係などの問題にも取り組んでいきたい。

取材者 黒澤

第48回日本看護学会—在宅看護—学術集会

選ばれる在宅看護の実現！～一歩ふみ出そう！切れ目のないケアを目指して～

- 会場：つくば国際会議場（エポカルつくば）
- 募集定員：1,500人
- 演題登録期間：平成29年2月1日（水）～4月14日（金）
- 事前参加登録期間：平成29年5月30日（火）～8月3日（木）
- ★詳細につきましては、日本看護協会ホームページをご覧ください。
(<https://www.nurse.or.jp/nursing/education/gakkai/>)

平成29年9月14日（木）

基調講演 10:40～12:10

“在宅看護の価値を問う ～療養者の生活の質向上に向けた協働の実現～”

講師 堀井 とよみ（京都看護大学看護学部 教授）
座長 相川 三保子（公益社団法人茨城県看護協会 会長）

交流集会Ⅰ 13:30～14:30”

“小児・若年者の在宅医療を考える ～病院から地域へふみ出すために～”

講師 高橋 昭彦（ひばりクリニック 院長、認定NPO法人うりずん理事長）
座長・講師 平澤 明美（茨城県立こども病院 成育在宅支援室 室長補佐）

交流集会Ⅱ 14:45～15:45”

“在宅領域における看護師のクリニカルリーダー（日本看護協会版）を用いた人材育成の可能性”

講師 松本 淳子（医療法人社団栄宏会 人材開発部 部長、認定看護管理者）
座長・講師 渋谷 美香（公益社団法人日本看護協会 教育研究部 部長）

平成29年9月15日（金）

特別講演 10:00～11:30

“世界初サイボーグ型ロボットHALの開発 ～歩くを実現する～”

講師 山海 嘉之（筑波大学大学院教授／サイバニクス研究センター長、
内閣府ImPACTプログラムプログラムマネージャー、
CYBERDYNE 株代表取締役社長／CEO）

座長 山口 忍（茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 教授）

シンポジウム 13:00～14:30

“人口減少地域の療養を看看連携で支える”

講師 大森 葉子（潮来保健所保健指導課長）
白川 洋子（公益社団法人茨城県看護協会 専務理事）
畑山 緑（公益社団法人茨城県看護協会立鹿嶋訪問看護ステーション 管理者）
座長 齋藤 訓子（公益社団法人日本看護協会 常任理事）

そよかぜ

私の専門

～がん看護専門看護師～

茨城県立中央病院

がん看護専門看護師 柏 彩 織



～がん患者さんやご家族、 看護師など医療スタッフの 良きサポーターを目指して～

現在の日本では2人に1人がんになり、3人に1人ががんで亡くなると言われています。がん看護専門看護師は、年々増え続けるがん患者さんに対し、治療法も多岐にわたるため、より専門性の高い知識や技術が求められています。また、患者さんを直接的に支えるだけでなく、チーム医療の中でも看護の中心となっていく役割があります。

2014年にがん看護専門看護師の資格を取得し、主に「がん患者さんやご家族の悩みや相談の対応」「院内の看護師からの相談対応や教育」「チーム医療で活動するメディカルスタッフ間の調整」「看護研究やその支援」などを行っています。直接ケアとして、がん患者さんやそのご家族と関わり、それぞれ生き抜くというプロセスをケアしていく中で、それぞれの問いや答えが無限にあるので、とてもやりがいと誇りを感じています。今後は院内だけでなく、さらに地域の医療スタッフとの多職種連携を強め、患者、家族をサポートしていきたいと思います。



保健師職能委員会ニュースレター (2017.3)

保健師職能委員長あいさつ 黒江 悦子 (茨城県つくば保健所)

日頃から、職能委員会の活動にご協力・ご支援いただきありがとうございます。

平成25年には地域における保健師活動指針が改訂され、その後、委員会では、共通で参加でき、職域をこえて交流を図れるよう保健師の活動指針の普及、保健指導の実践力向上と多職種参加による地域包括ケアシステム推進の研修会、統括保健師研修をはじめとする情報の発信と活動の可視化をめざしたニュースレターの発行を行い、今回で4回目となりました。

保健師のネットワーク強化は日看協だけでなく本県も課題です。

富山県、山梨県、群馬県は入会率が80%ですが、本県は34%で会員数は386人(平成29年1月現在)です。日本看護協会は大勢の仲間できちんと取り組むことで看護職の労働条件や業務範囲の拡大やそのための研修の法則化を厚生労働省に提言し、実現を目指しています。

保健師関連では、統括保健師配置の推進やキャリアラダーの策定・活用支援、健康寿命延伸に向けた地域連携推進等にも取り組んでいます。保健師の入会数を増やし、保健師1人ではできないことを、大きな力にしていきたいと思います。よろしくお願いたします。



活動報告

1 保健指導ミーティング(中堅期) 平成28年8月12日(金)

実践力UP事例検討会は、対象の理解を深め、次の具体的な支援に活かせるよう参加者全員が同じ方向を向き、自ら考え行動できる検討会です。

中堅期研修では、「アセスメント」とそれを深める「ファシリテーターの役割」に焦点をあてて、保健所・市町村・病院・地域包括支援センター・検診機関等多分野で活躍する保健師22名が学びました。

昨年に引き続き、塚原洋子氏(保健師のための相談室なごみ主宰)を講師として、「事例検討会の進め方とファシリテーターの役割」について講義を受け、事例検討会の実際を行いました。

研修後は、「職場内に伝達したい、職場で行う必要性を感じた」「情報の整理・アセスメントの重要性を感じた」「事例の強みを見いだすことができた」等の意見・感想が寄せられ、今後は、現場で活用されることを期待しています。



講師 保健師のための相談室 なごみ 主宰 塚原 洋子 氏



最近の事例は、抱えている問題が複雑化・多様化し、かかわるメンバーの職種も多種多様です。事例検討をすることにより課題や問題をシンプルに分析し、支援方針を整理することが対象者中心の支援につながりますね。

「継続は力なり」「学びあうところ」を大切に
事例検討を!

2 保健指導ミーティング(新任期) 平成28年11月10日(木)



～実践力 UP 事例検討会・みて・考え・理解して～

昨年に引き続き、つくば市桜保健センター長の小野村順子氏と新たに石岡市の高橋幸氏を講師に迎え、新任期及び指導保健師のスキルアップを図り、各領域保健師の連携・交流を図ることを目的に研修会を開催しました。

当日は27名の参加があり、母子保健、介護予防、精神保健、生活習慣病予防の4グループに分かれ、事例検討、グループワークを行いました。

新任期保健師の参加が多かったため、今回はファシリテーターと板書係は中堅期の保健師が担当しましたが、参加者からは事例検討に集中できた、ホワイトボードを使用することで情報整理ができ、皆と同じ方向を向いて、支援策を検討し、それを共通認識できる良い機会になったという意見が多く出されました。

また、業務に事例検討を取り入れることで、困難事例を一人で抱え込まず、チームで考え支援する体制が根付き、多くの保健師のスキルアップが期待できます。研修会に参加したほとんどの者が事例検討会について「頑張れば、自分の職場で実践できそう」と答え、事例検討の取り組みに自信を持てたと考えられます。

最後の面接技術のロールプレイの演習では、「対象者の気持ちになり、共感して聴くことはどうしたことなのか実感できた」、「明確な目的を持って訪問、面接を行う大切さがわかった」と自身の面接や指導の振り返りができ、業務に活かしていきたいと強い意気込みを感じました。

3 地域包括ケアシステム研修 平成29年1月21日(土)

- ・講演 「2025年に向けて 今できること・すること」
島根県健康福祉部健康推進課長 村下 伯氏
- ・情報提供 「医療・介護連携推進人材養成事業」
茨城県看護協会 常任理事 大槻 解子氏
- ・活動報告 「地域包括ケア病棟での退院支援・地域連携の取り組みと課題」
牛久愛和総合病院 竹野 真理子氏、高野 晴美氏
「在宅医療・介護連携推進事業実施に向けた行政の取り組みと課題」
ひたちなか市介護保険課長 大川 貴子氏
- ・グループワーク 「“家で安心して自分らしく暮らし続けたい”を支えるには」



受講者は計66名で、保健師、看護師、理学療法士、薬剤師、社会福祉士と多職種の参加がありました。講師の村下氏から、取り組むべきことは、地域包括ケアシステムを構成する関係者が、地域に横たわる課題を共有し、組織横断的な「場」と「しくみ」を作っていくことが必要であるとお話がありました。

従来から、健康づくり・地域づくりに取り組んできた保健師に、ますます期待がかかっていることを再認識する内容でした。

GWはKJ法を用いて行いました。

☆研修会のお知らせ☆

★茨城県看護協会職能集会★

平成29年6月22日(木)の通常総会後に三職能合同でシンポジウムを開催します！
詳細は、通常総会開催通知およびHPから

★産業保健分野で働く保健師に必要な能力研修★

日程 平成29年7月20日(木)～21(金)、11月15日(水)
申込期間 4月3日～17日

★平成29年度全国保健師交流会★

平成29年6月8日(木)に東京ベイ幕張ホールにて、特別講演、及び「もう一度地区活動～PDCAサイクルにもとづいた戦略的展開～」をテーマにシンポジウムを開催します。参加費：会員無料、非会員 1,000円

申し込みは
日本看護協会
HPから
(*_*)

准看護師学生のキャリア支援に関する 実態調査報告(一部抜粋)

平成 28 年度業務委員会

小野陽子 金沢ひろみ 原田靖子 仙田順子 篠原弘子 廣木とよ子 関美香 天野幹子

茨城県の准看護師学校養成所在学生を対象に准看護師資格取得後の自分のキャリアに関して学生がどのように考えているか実態調査結果を報告する。

<調査概要>

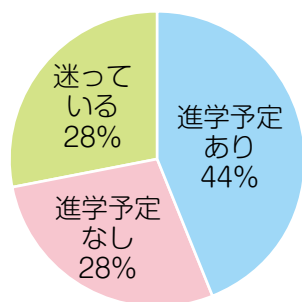
調査対象：県内の准看護学校（5 校）に在籍している 2 年生 267 名

調査期間：2016.8 月～2016.9 月 データ収集方法：記述的質問紙調査

<結果>

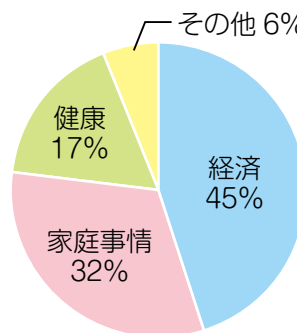
アンケート回収率（配布数 267 回収数 257 有効回答数 256）回収率 96.3% 分析数 95.9%

進学予定について (n=256)



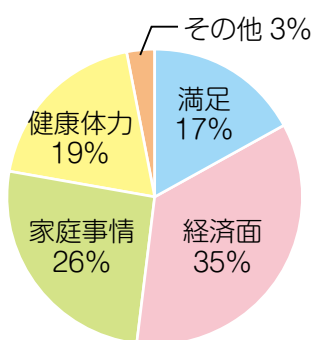
進学予定者が 44%と最も多かった。

進学を迷っている理由 (n=105) ※複数回答



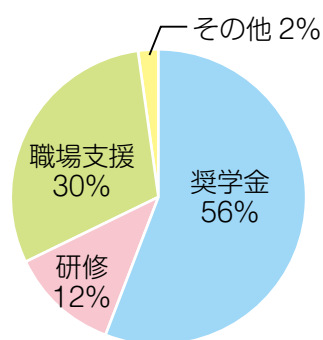
進学を迷っている人の理由では、「経済面」が最も多く 45.0%、次いで「家庭の事情」や「健康・体力面」であった。

進学を考えていない理由 (n=91) ※複数回答



進学を考えていない理由で 40～50 代は、健康・体力との回答であった。30 代で「迷っている」「考えていない」の回答では、経済的問題と家庭の事情が特徴的であった。

進学するために必要な支援 (n=73)



進学するために必要な支援は、「奨学金」の回答が最も多く、次いで「職場からの支援」であった。

<結論>

今回の調査では、学生の背景として、年代も幅広く、経済面で困っている人、困っていない人、志望動機も様々であった。進学をしたいと考えている学生は、自分の意志で入学しており、進学を迷っている学生は、家庭事情と経済面が影響していた。

研修のお知らせ

4月募集が開始されます

【4月募集研修一覧】

研修時間：標記のないものは10:00～16:00

	研修番号	研修名	学習段階	日程	研修会場	定員(名)	応募期間
他施設合同研修	1	接遇 —新たな環境にスムーズに適応する—	I	5月19日(金) 9:30～16:30	看護研修センター	80	4/1～ 4/20
	2			5月25日(木) 9:30～16:30	土浦研修室	50	
	3	救急看護 —私にもできる！急変時の対応—	I	6月14日(水) 10:00～15:00	看護研修センター	30	4/14～ 5/10
	4			6月28日(水) 10:00～15:00	土浦研修室	30	
新入職	19	新入看護職研修 看護協会の役割・事業 特別講演「看護師のキャリアを考える 素敵な看護師になるために」	I	4月27日(木) 13:00～15:30	茨城県立 県民文化センター 小ホール	300	
看護実践研修	20	感染看護 (上級編)	Ⅲ～Ⅳ	5月30日(火)	看護研修センター	70	4/1～ 4/20
				6月15日(木)			
	22	皮膚・排泄 ケア	Ⅱ～Ⅳ	5月31日(水)	看護研修センター	60	
				6月21日(水)			
				7月5日(水)			
				7月6日(木)			
				8月29日(火)			
	23	ストーマケア	I～Ⅳ	5月26日(金)	看護研修センター	60	
	28	看護研究(基礎編) —初めてみよう看護研究—	Ⅱ～Ⅳ	5月22日(月)	看護研修センター	80	
				5月25日(木)			
40	中堅看護職 —看護マネジメントリフレクシオン—	Ⅲ～Ⅳ	6月1日(木)	看護研修センター	80	4/17～ 4/28	
41	中堅看護職 —看護倫理—	Ⅲ～Ⅳ	6月16日(金)	看護研修センター	80	4/20～ 5/15	
42	中堅看護職 —メンタルヘルス—	Ⅲ～Ⅳ	6月20日(火)	看護研修センター	80		
43	地域包括ケアシステムにおける 看護職の役割	Ⅲ～Ⅳ	6月13日(火)	看護研修センター	80	4/14～ 5/10	
資格研修	48	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	Ⅲ～Ⅳ	7月4日(火) ～12月	看護研修センター	50	4/3～ 4/17
	49	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	Ⅳ	7月4日(火) ～12月	看護研修センター	30	
	52	実習指導者講習会	Ⅱ～Ⅲ	7月19日(水)～ 8月23日(水)	看護研修センター	100	4/20～ 5/15
				9月22日(金)～ 10月20日(金)			
57	退院調整看護師養成研修Ⅰ(基礎編)	Ⅱ～Ⅳ	5月30日(火) 9:30～15:00	ホテル レイクビュー水戸	150	4/1～ 4/20	
			5月31日(水)				
			6月9日(金)				

※申し込み方法等については、茨城県看護協会ホームページ (<http://www.ina.or.jp>) をご覧ください。
 ※「平成29年度教育計画」につきましては、別途送付いたします。

全国初

訪問看護入門プログラム研修を開催しました

開催日：平成29年3月15～16日 場所：看護研修センター 参加者：65名

この研修は、日本看護協会が作成した「訪問看護入門プログラム」を用いて、訪問看護未経験でも「自分も訪問看護ができそうだ」「やってみよう」という気持ちになってもらうことを目的に企画した紙上演習タイプ研修です。



山田雅子先生による講義

聖路加国際大学大学院看護学研究科教授山田雅子先生を講師に迎え、「訪問看護とは（概論）（基礎技術）（事例検討・グループワーク）」という内容で2日間の研修を行いました。

定員30名のところ、医療機関、訪問看護ステーション、看護学生といったさまざまな分野の看護職等、未就業の看護職の方、65名に参加いただきました。

■受講者の声

- ・山田先生の講義はわかりやすく、「訪問看護って楽しいもの」と感じさせてくれた。
- ・病院でも在宅でも「看護過程は同じ」、訪問看護は「自分がやりたいこと」ではなく、「この人のために」できることは何か、ナースとしてどう捉え、どう支えたいか等共有でき、お互いの壁が無くなった。
- ・退院支援計画がいつも同じようになっていたが、患者の個性性を考えていなかったことに気付いた。



ファシリテーターとして訪問看護認定看護師の皆さんにご協力いただきました

訪問看護ステーション 出向研修交流会を開催しました

平成28年度から始まった訪問看護ステーション出向研修は、平成28年度5病院7名の看護師の皆さんが研修に参加しています。3月15日には、既に参加されている又は今後参加予定の関係者（出向研修生、出向元病院看護部長、出向先訪問看護ステーション管理者等）総勢51名にご参加いただき、交流会を開催いたしました。

当日は、研修参加者から、所属病院からの退院患者宅への訪問看護を通して、患者・家族の理解度を確認しながら具体的な退院指導を行うことの重要性や地域連携の在り方の実際についての学びを得た等の報告がありました。

また、来賓として参加された山田雅子先生（聖路加国際大学大学院看護学研究科 教授）から、本県における活発な取り組みへの称賛と今後の活動への期待についての激励のメッセージを頂きました。

なお、本事業は、平成29年度も継続し、12名の方が訪問看護ステーション出向研修を予定しています。皆さまのご参加をお待ちしております。



地域包括ケア推進に関する研修会の案内

■訪問看護師養成講習会

目 的：訪問看護に携わる看護師等が、訪問看護に必要な基本的知識と技術を習得し、質の高い訪問看護の提供に活かすことができる。

研修期間：平成 29 年 4 月 24 日（月）～10 月 27 日（金）30 日程度

会 場：茨城県看護協会 看護研修センター

定 員：30 名程度

対 象 者：訪問看護に従事又は従事を希望する看護職

（訪問看護事業所・医療機関等に勤務する看護師、未就業の看護師等）

研修内容：訪問看護概論、訪問看護対象論、訪問看護展開論、在宅ケアシステム論、訪問看護技術論、実習、総合演習

※詳細は茨城県看護協会ホームページ参照

申込方法：申込書に必要事項を記入のうえ、茨城県看護協会まで送付願います。（FAX可）

※申込書は、茨城県看護協会ホームページよりダウンロード、又は、茨城県看護協会教育研修計画冊子の申込書をご利用ください。

申込締切：平成 29 年 4 月 17 日（月）必着



■在宅療養・訪問看護推進研修—訪問看護同行研修—（※医療機関訪問看護師推進研修を改称）

目 的：医療機関に勤務する看護師等が、在宅で訪問看護を利用する療養者及びその家族のもとへ、訪問看護師と同行訪問することにより、在宅療養の理解を深め、退院支援・退院調整の推進を図ることができる。

研修期間：平成 29 年 4 月 24 日（月）～10 月 27 日（金）9 日程度

会 場：茨城県看護協会 看護研修センター

定 員：30 名程度

対 象 者：医療機関等に勤務する看護師等で、地域連携や退院支援・調整に関わる又は関心のある者

研修内容：訪問看護概論、訪問看護対象論、訪問看護展開論、演習、実習

※詳細は茨城県看護協会ホームページ参照

申込方法：申込書に必要事項を記入のうえ、茨城県看護協会まで送付願います。（FAX可）

※申込書は、茨城県看護協会ホームページよりダウンロード、又は、茨城県看護協会教育研修計画冊子の申込書をご利用ください。

申込締切：平成 29 年 4 月 17 日（月）必着

※上記の 2 研修は、演習・実習を除く各項目を公開講座としています。

『第53回いばらき看護の祭典 ～看護の心をみんなの心に～』が開催されます。

日 時 平成 29 年 5 月 14 日 (日) 12:00 ~ 15:30 ※ロビーイベント 10:00 ~ 15:30

場 所 茨城県立県民文化センター 大ホール 水戸市千波町東久保 697 番地

■プログラム (大ホール)

- 12:00 開会 ※開場 (11:00)
式典
茨城県優良看護職員知事表彰 等
- 13:00 キャンドルサービス 茨城西北看護専門学校
- 13:30 ミニコンサート かとうれい子 氏
- 14:00 特別講演
「聞いて長生き！笑って健康！健康人生バンザイ」
講師 落語家 林家うん平 氏
- 15:30 閉会

会場でお待ち
しております

■ロビーイベント (10:00 ~ 15:30)

- まちの保健室 (乳がんセルフチェック、血管年齢測定 等)
- おくちの相談コーナー (茨城県歯科衛生士会)
- ちびっこナース体験 (子供用ナース服の試着)

平成28年度理事会報告

■第6回 平成29年2月24日(金)

【協議事項】

- 1 平成29年度重点政策・重点事業(案)について 承認
- 2 平成28年度事業報告(第3・四半期)(案)について 承認
- 3 平成29年度事業計画(案)について 継続審議
- 4 平成29年度教育計画(案)について 承認
- 5 平成28年度予算執行状況(第3・四半期)(案)承認
- 6 平成29年度収支予算(案)について 継続審議
- 7 認定看護管理者教育課程細則の改正(案)について 承認
- 8 平成29年度優良看護職員候補者の推薦について 承認
- 9 平成30年度日本看護協会代議員及び予備代議員理事会推薦枠について 承認

【報告事項】

- 1 平成28年度第6回日本看護協会理事会報告
- 2 平成28年度都道府県看護協会政策責任者会議報告
- 3 「看護職の賃金モデル」推進事業会議報告
- 4 平成28年度都道府県看護協会広報担当役員会議報告
- 5 第53回いばらき看護の祭典について
- 6 平成28年度茨城県看護研究学会報告

■第8回 平成29年3月22日(水)

【協議事項】

- 1 平成29年度事業計画(案)について 承認
- 2 平成29年度通常総会プログラム(案) 承認
- 3 平成29年度職能集会プログラム(案) 継続審議
- 4 平成29年度収支予算書(案)について 承認
- 5 平成29年度資金調達及び設備投資の見込み(案)について 承認
- 6 平成29年度茨城県看護協会会長表彰候補者の追加推薦(案)について 承認

【報告事項】

- 1 平成28年度日本看護協会第2回全国職能委員長会報告
- 2 平成28年度日本看護協会会長表彰者の決定について
- 3 第53回いばらき看護の祭典について

■看護いばらきNo.117予告

- 平成 29 年度通常総会報告
- 新役員紹介
- 第 53 回いばらき看護の祭典報告

など

編集後記

春風に乗ってほのかな花の香がただよう頃となりました。皆さん新年度を迎える準備はいかがですか。

木の芽吹きの際は体調を崩しやすい時期ですので、お身体に気を付けてお過ごし下さい。

広報委員一同